

ボランティア活動を体験した学生の変化・成長

～ボランティア参加者の調査結果から～

垣渕 直子・多田紗矢香・齊藤 佳子・次田 一代

1 はじめに

本学生生活文化学科の生活文化専攻及び食物栄養専攻では平成23年度より、公益財団法人明治百年記念香川県青少年基金の助成を受け学生による企画提案活動支援事業を学内で実施している。昨年度よりこの事業は、公募制となり、各団体が香川県庁内でプレゼンテーションを行い、財団の理事による審査を受け助成が決定されている¹⁾。この事業は事業内容についての助成であり、本学学生はすべてボランティアで実施しているものである。本学は毎年、小学生を対象とし、生活文化に関する内容の事業を実施してきた。今年度も6月に「生活文化にふれようーオリジナルお正月飾りの製作と旬・地域の食材を用いたお正月料理の調理ー」の事業名で申請を行い、プレゼン発表を経て助成決定がなされた。内容は生活文化学科の生活文化専攻と食物栄養専攻の学生が共同で小学生に対して様々な体験を企画・実施し、これらの取り組みを通して生活文化学科での学びをさらに深めるものである。今回は、年中行事の「正月」を題材として、オリジナルのお正月飾りの製作と香川県の旬の食材を用いたお正月料理の調理実習を行うことで、地域の文化の継承を視野に入れた活動を行った。

ボランティア (volunteer) ということばは、ラテン語の volo 「意志・欲する」が語源である。この volo は、英語の will に相当するものである。それか

ら派生した voluntas という自由意志を意味する言葉に、人名称の -er をつけてできた言葉がボランティアである²⁾。また、辞書には「志願者、奉仕者」などと記してある³⁾。

日本では、ボランティア活動に該当するような活動をしていた人は、「篤志家」とよばれ、一部の裕福な家庭の主婦や名士、大学生などの奉仕活動をする人がそれに相当していたが、近年の日本ではボランティア活動は、より一般的な活動となってきている。

ボランティアについての研究⁴⁾によれば、ボランティアには、自発性・無償性・連帯性の3原則があると言われている。自発性とは、voluntas の語が示す、自らすすんで始めるという動機に関する原則である。つまり、だれかに強制されることなく、自分がやりたいからするものである。また、無償性とは、ボランティア活動が営利を目的としたものではなく、活動への報酬を受けとらないことを示す。ボランティアにとっての報酬は自分の活動が相手に喜んでもらえたときにいただく喜びであるとされている。そして、連帯性とは、仲間どうしや対象者との温かい交流である。仲間どうしはもちろん、対象者とボランティアとはタテの関係ではなく、あくまで対等なヨコの関係であり、ある不自由なことに立ち向かうどうしである。このふれあいを通して、人とかかわる喜びが得られるとされている。

黒沢らが行った報告によると「メンタルサポート・ボランティア」活動を経験した学生自身の変化・成長の様相を明らかにし、キャリア教育という観点から検討考察している⁵⁾。

近年、大学生を含めた若年層の職業観や職業意識が変化しており、仕事志向やキャリア志向が高まり

平成26年1月7日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 生活文化学科
TEL 0877(49)5560 FAX 0877(49)5561
Email kakibuchi@kjc.ac.jp

つつある⁶⁾。キャリア教育の視点から大学生が獲得すべき能力をあげたものとしては、厚生労働省が示した「就職基礎能力」⁷⁾や経済産業省による「社会人基礎力」⁸⁾がある。ただ、厚生労働省の就職基礎能力支援事業（通称YES-プログラム）は2009年度で事業を終了している。

昨年度、筆者らが食物栄養専攻の参加学生に行ったアンケート調査では、自分たちが主体となり活動した学生たちは、「達成感がある」、「考える力や適応力がつく」など前向きな意見が多いという結果がみられた⁹⁾。また実施前と実施後に文部科学省の「学士力」¹⁰⁾や経済産業省の「社会人基礎力」の変化をみるための調査を行ったところ、すべての項目で意識が向上しており、その中でも「積極性」、「想像力」の項目が高くなっていった。今年度はこの昨年度のメンバーが中心となり、新規の参加者も加わり、短大での普段の学び（知識や技術）を子どもたちに伝えることで、地域・社会の一員としてのかかわりを深める機会となることを期待した。実施の前後に今年度は、「社会人基礎力シート」¹¹⁾を作成し、その結果について評価を行ったので本事業の内容と合わせて報告する。

2 方法

1 事業内容について

(1) 事業ボランティア構成員

この事業は、生活文化学科生活文化専攻2年生5名、1年生4名合計9名。食物栄養専攻2年生10名、総合計19名の構成員で行った。なお、食物栄養専攻学生のうち8名は昨年の事業から継続での参加者であった。

(2) 事業の実施準備

①事業に使う媒体、内容の検討

事前全体ミーティング（平成25年7月24日）で内容を決定し、平成25年11月17日の実施日にむけてそれぞれの専攻で各ゼミの時間などを利用して準備を行った。

②広告（チラシ）作り

図1のとおり、学生によるチラシ作りを行った。

③地域の小学校への事業参加者募集、参加者の決

定

平成25年9月2日～宇多津町教育委員会を通じて宇多津小学校、宇多津北小学校全児童へちらし配布

④お正月料理の調理実習の試作

平成25年10月1日にお正月料理の調理実習の献立として、鮭ご飯、古代米（当日は持ち帰り用に）、田づくり、紅白かまぼこ、たたきごぼう、オリーブはまちの照り焼き、三色なます、だしまき卵、栗きんとん、みかんゼリー、すまし汁の試作を行った。当日は、以上のものに彩りを考え、キウイフルーツを追加して調理実習を行うこととした。

⑤当日のレジユメ及びアンケート用紙の作成

当日のレシピなどをまとめたレジユメ、及びアンケート用紙（図2）を学生が作成した。

(3) 事業の実施

事業開講日：11月17日（日）9：00～13：30

9：00～9：30 調理実習で使う旬の食材を用いた食育教室

9：30～11：00 お正月飾りの製作

11：00～13：00 旬と地域の食材を用いたお正月料理の調理実習

(4) 事業後のふり返り

①事業参加者（児童・保護者）へのアンケート調査

参加者へのアンケート用紙を回収し、結果をまとめた。

②事業報告書の作成

公益財団法人明治百年記念香川県青少年基金へ報告するために、提出様式に従い、決算書、報告書の作成を平成25年11月26日～12月17日に行った。

2 学生へのアンケート調査（社会人基礎力調査）

(1) 調査対象者

調査対象は、事業開始前後のアンケートが回収できた香川短期大学生生活文化学科生活文化専攻学生7名と食物栄養専攻学生10名を対象とした。対象特性は女性19名であり有効回答は17名（回答率89.5%）であった。

(2) 調査時期

調査は2013年7月に事前調査を、12月に実後調査

生活文化にふれよう！

(公財)明治百年記念香川県青少年基金助成事業
平成25年度学生による企画提案活動支援事業

参加費
無料！

オリジナルお正月飾りの製作と 旬・地域の食材を用いたお正月料理の調理

開催場所: 香川短期大学 食物栄養棟

対象 本学近隣の小学生とその保護者

(生活文化専攻・食物栄養専攻の学生と一緒に)

(日時) 平成25年11月17日(日) 9:00~13:00

(内容)

食育教室 …旬の食材について

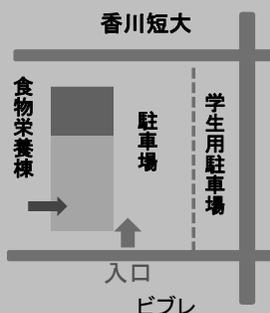
製作 …お正月飾り

調理実習 …お正月料理の調理実習



(古代米、オリーブはまちなど香川の特産品を使う予定です。)

注: 保護者の方のお車は職員用駐車場に停めて下さい。



持ち物
バンダナ
エフロン
ハンドタオル



募集数: 40 組

平成25年10月18日(金) 〆切

申し込み方法: ↓の内容をできるだけメールもしくはFAXでお申込み下さい。

出席が確定した方には、メールでご連絡いたします。

ふりがな 名 前		性別	男・女	学年	
ふりがな 名 前		性別	男・女	学年	
小学校名		TEL			
メール アドレス					
ふりがな 保護者氏名		参加 ・ 不参加			

後 援
宇多津町教育委員会

お問い合わせ先

香川短期大学生活文化学科食物栄養専攻
〒769-0201 綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
TEL 0877-49-5560 FAX 0877-49-5561
e-mail eiyoun@kjc.ac.jp

香川短期大学 生活文化学科 食物栄養専攻2年 穴吹(代表)

見習用 2013年11月17日実施

食育・料理講習会アンケート

学校名：() 学年：() 学年：() 性別：男・女

お母さんと同様です！ 当てはまるものに○をつけてね。

★食育教室に参加する前は・・・

食べることは好きですか？ (はい 1 ふう 2 くらい 3)

料理を作ったことはありますか？ (はい 1 いいえ 2)

お家の人のお手伝いをよくしていますか？ (はい 1 いいえ 2)

郷土料理に興味はありますか？ (はい 1 ふう 2 くらい 3)

★食育・料理講習会に参加して・・・

地域の食材のことがよくわかりましたか？ (はい 1 どちらでもよい 2 いいえ 3)

食育の話についてはよくわかりましたか？ (はい 1 どちらでもよい 2 いいえ 3)

料理をするのは楽しかったですか？ (はい 1 どちらでもよい 2 いいえ 3)

1番おいしかった料理はなにですか？ ()

お正月におせちを作ったことがありますか？ (はい 1 いいえ 2)

また参加してみたいと思いますか？ (はい 1 いいえ 2)

感想を書いてね

ありがとうございました。

図2 児童へのアンケート用紙

を実施した。

(3) 調査方法

アンケートは自己記入式留め置き法で行った。本事業開始前にアンケート用紙(図3)を配布し、「社会人基礎力シート」⁹⁾に5つの段階で自分はどこにあてはまるかの設問に回答してもらった。また、本事業終了後の12月に同様の質問を行い、用紙を回収した。

なお、このアンケートで用いた「社会人基礎力」には、3つの能力と12の能力要素があり、3つの能力とは、①前に踏み出す力、②考え抜く力、③チームで働く力である。また、12の能力要素は①主体性、②働きかけ力、③実行力、④課題発見力、⑤計画力、⑥創造力、⑦発信力、⑧傾聴力、⑨柔軟性、⑩状況把握力、⑪規律性、⑫ストレスコントロール力である(表1)。

(4) 調査項目

社会人基礎シートをもとに評価法については5段階の順序尺度を設定し評価を行った。

社会人基礎力 自己分析シート	学号番号()	評価
		1 2 3 4 5 ほとんどない あまりない ふう ややある とてもある
① 主体性 物事に進んで取り組む力 ・指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む ・他人に先駆けて自己を打ち出している ・意見を持って自主的に判断して行動している ・躊躇することなく行動に移っている ・何事も自分のこととして受け止めて動くことができる ・公私ともに自己啓発にチャレンジできる	1~5点を記入	[]
② 働きかけ力 他人に働きかけ働き込む力 ・やろしやないかと呼びかけ、目的に向かって周囲の人を動かしていく ・他人を目標に向かって集中させる ・自分の目標を取り下げても、全体をまとめるようにに専念している ・全員に働きかけて課題達成に導いている ・発言を独り占めしたり、攻撃的行動で押し付けたりしない ・あまり意見のでないメンバーの発言を促している	1~5点を記入	[]
③ 実行力 目的を設定し、確実に行動する力 ・いわれた事だけをやるのではなく、自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組んでいる ・時間が経っても疲れを見せずに行動している ・責任感があり、何事にも簡単にあきらめない ・何事にもスピード感を持って迅速に行動する	1~5点を記入	[]
④ 課題発見力 現状を分析し、目的や課題を明らかにする能力 ・目標に向かって、自らここに問題があり、解決が必要だと提案する ・なぜそうなのかなどを常に考えている ・物事の本質を見極め、原因を掘り下げ、真因を探っている ・あるべき姿やあるべき基準を照らして、近づけるようになっている ・目標達成の阻害要因を把握し、その排除に取り組んでいる ・現象面に終わらず、内在する原因をつかみようとしている	1~5点を記入	[]
⑤ 計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 ・課題に解決に向けた複数のプロセスを明確にし、その中で最善のものは何かを検討し、それに向けた準備をしている ・目標達成に至る道筋をまっすぐに立てている ・前もって時間の配分や進行の手順を具体的にたてている ・常に目標に向かって進んでいるかを意識している ・目標達成のための役割分担、スケジュールing、進行度のチェック体制などの協立を適確に進めている	1~5点を記入	[]
⑥ 創造力 あたらしい価値を生み出す力 ・既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考えている ・既成概念にとらわれず、自由で新しい発想ができる ・他人の考えにヒントを得て、新しいアイデアを出している ・前歴や慣行や前任者のやり方に拘らず、豊かな発想で変革していく ・時代や環境の変化を先取りし、先見性に基づく革新を目指している ・いくつかの考えを統合して、新しい考え方を打ち出している	1~5点を記入	[]
⑦ 発信力 自分の意見を分かりやすく伝える力 ・自分の意見を分かりやすく整理したうえで、相手に理解してもらえようように適切に伝えている ・明確な発音で、流暢な語法をしている ・相手に視線を向け、身を乗り出して話している ・簡潔に短時間で要点をまとめて話している ・気持ちがありありと伝わり、説得力がある	1~5点を記入	[]
⑧ 傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力 ・相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出している ・相手の発言や気持ちを全身を耳にして聴いている ・他人の発言に対してフィードバックし裏面を確認している ・相手の話の腰をおろさず、最後まで聞くようにしている	1~5点を記入	[]
⑨ 柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力 ・自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し、理解しようとしている ・他からのアドバイスをすすんで受け入れている ・状況に応じて、相手への接し方を修正している ・自分の案に固執することなく、よりよい案を受け入れるようになっている	1~5点を記入	[]
⑩ 状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 ・チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解している ・自分の行動や発言が相手にどのような影響を与えているかを考えている ・利己的な思想をよらず、他の人々と共赢を目指すことはしている ・特定の個人に感情を注ぎすぎず、グループ全体に気を配っている ・全体に及ぼす影響を意識し、考えながら行動している	1~5点を記入	[]
⑪ 規律性 社会のルールや人との約束を守る力 ・状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律している ・法と規則を守り、信用を確保・維持している ・高い倫理観を持ち、公正に対応している ・集会、開始、休憩、終了、解散時の時間厳守や対応は適確である ・決められたことについては素直に従っている	1~5点を記入	[]
⑫ ストレスコントロール力 ストレスの発生源に適切に対応する力 ・ストレスを感じることもあって、成長の機会だと前向きにとらえて肩の力を抜いて対応している ・圧迫状況下にあっても、質の高い判断をし、課題を遂行している ・圧迫そのものが気に入らず、真からリラックスしている ・一貫して安定した気持ちを持ち続けている ・圧迫があっても攻撃的にならず、イライラすることもない ・適当な気晴らしの方法を持っている	1~5点を記入	[]
	60点中 総合計	[]

図3 社会人基礎力自己分析シート

表1 社会人基礎力としての3つの要素と12の能力要素

分類	能力要素	内容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力 例：指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 例：「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。
	実行力	目的を設定し確実に行動する力 例：言われたことをやるだけでなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 例：目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 例：課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最前のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。
	創造力	新しい価値を生み出す力 例：既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 例：自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力 例：相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力 例：自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 例：チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力 例：状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力 例：ストレスを感じることもあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。

(5) 解析方法

これらの統計解析は、統計ソフトIBM SPSS Statistics Version 21を用いて行った。事業実施前、実施後の比較には対応のある t 検定を用いて解析を行った。

3 結果

1. 事業内容について

(1) 事業の実施状況

11月17日(日)学生ボランティア17名によって実施された。参加者は小学生33名、保護者20名の合計53名であった。

- ①食育教室：食物栄養専攻学生8名で実施された。内容はパネルシアターを用いての「出世魚について」のクイズ形式による説明と、スライドを用いての「香川県の食材について」「おせち料理について」の説明を行った。
- ②オリジナルお正月飾りの制作：生活文化専攻学生7名が講師役となり作り方の説明および制作の補助を行った。
- ③お正月料理の調理実習：食物栄養専攻学生9名により実施された。まず初めに作り方の説明を3名の学生が実演を交えて行った。その後9台の調理台に分かれて調理実習を行い、各台に1名ずつ補助として食物栄養専攻学生がついた。

2. 学生へのアンケート調査（社会人基礎力調査） 結果

(1) 事業実施前後による比較

事業実施前後における17名の平均値の変化については、図4に示した。実施前にもっとも平均値が高かった項目は、「規律性 (3.59±0.19)」でついで「傾聴力 (3.35±0.21)」, 「状況把握力 (3.24±0.18)」であった。もっとも低かった項目は、「発信力 (2.65±0.24)」でありついで、「ストレスコントロール力 (2.77±0.18)」となっていた。

実施後に平均値がもっとも高かった項目は実施前同様、「規律性 (3.77±0.16)」, ついで「傾聴力 (3.58±0.17)」であったが、実施前に平均が低かった「ストレスコントロール力 (3.47±0.15)」が実施前に比べ有意に高くなった ($p < 0.01$)。また、「主体性 (3.47±0.15)」も実施前に比べ、実施後に平均値が有意に高くなった ($p < 0.01$)。

また、実施後にもっとも低い項目は、「計画力 (3.00±0.15)」であり、次いで「課題発見力 (3.06±0.14)」であった。

それぞれの項目で事業前と事業後の相関係数を求めた結果、「課題発見力 ($r = 0.619, p < 0.001$)」, 「規律性 ($r = 0.515, p < 0.05$)」で強い相関関係が見

られた。逆に「計画力」, 「柔軟性」, 「状況把握力」には相関関係は見られなかった (表2)。

(2) ボランティアの経験による比較

この事業を昨年もボランティアとして参加した学生を継続参加群 (8名), 今年初めて参加した者を初参加群 (9名) としてグループ分けを行い解析した。

表2 実施前と実施後の平均値の相関係数

n = 17		
能力要素	相関係数	有意確率
①主体性	0.420	0.093
②働きかけ力	0.441	0.077
③実行力	0.345	0.174
④課題発見力	0.619	0.008
⑤計画力	-0.155	0.553
⑥創造力	0.258	0.318
⑦発信力	0.386	0.126
⑧傾聴力	0.455	0.066
⑨柔軟性	0.244	0.346
⑩状況把握力	0.222	0.393
⑪規律性	0.515	0.034
⑫ストレスコントロール力	0.250	0.332

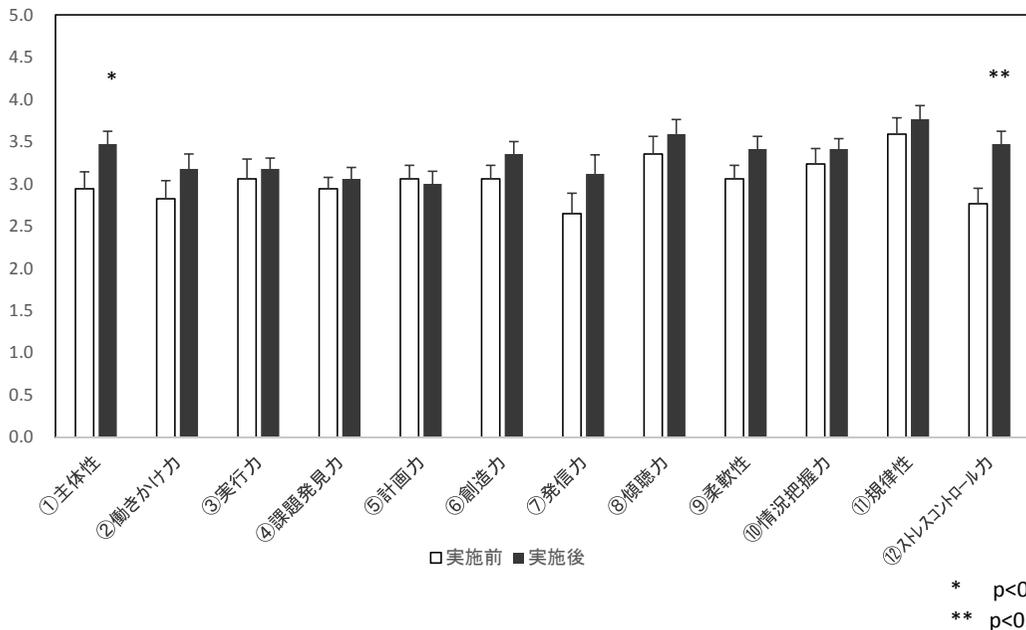


図4 社会人基礎力の変化 (全体)

継続群では実施前と比較し、実施後では特に「創造力」、「傾聴力」、「規律性」の平均値が上がったが、どれも有意の差は見られなかった（図5）。「働きかけ力」、「実行力」、「発信力」では、逆にわずかであるが低くなっていた。

初参加群では、「計画力」を除くすべての項目で実施前に比較し実施後において平均値が高くなっていった（図6）。特に「主体性（ $p < 0.05$ ）」、「働きかけ力（ $p < 0.01$ ）」、「発信力（ $p < 0.05$ ）」、「ストレスコントロール力（ $p < 0.01$ ）」で実施前に比較し

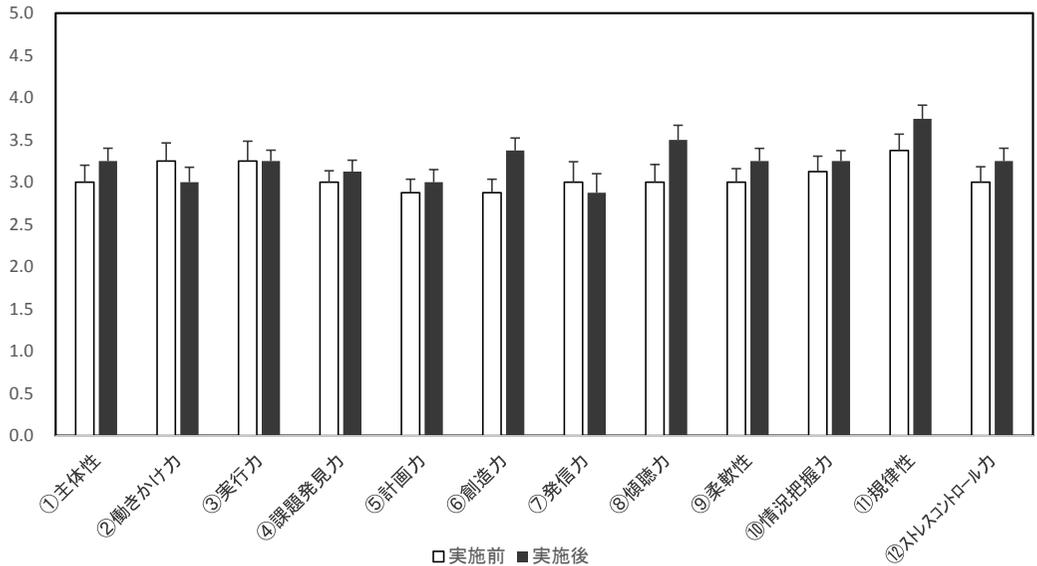


図5 社会人基礎力の変化（継続群）

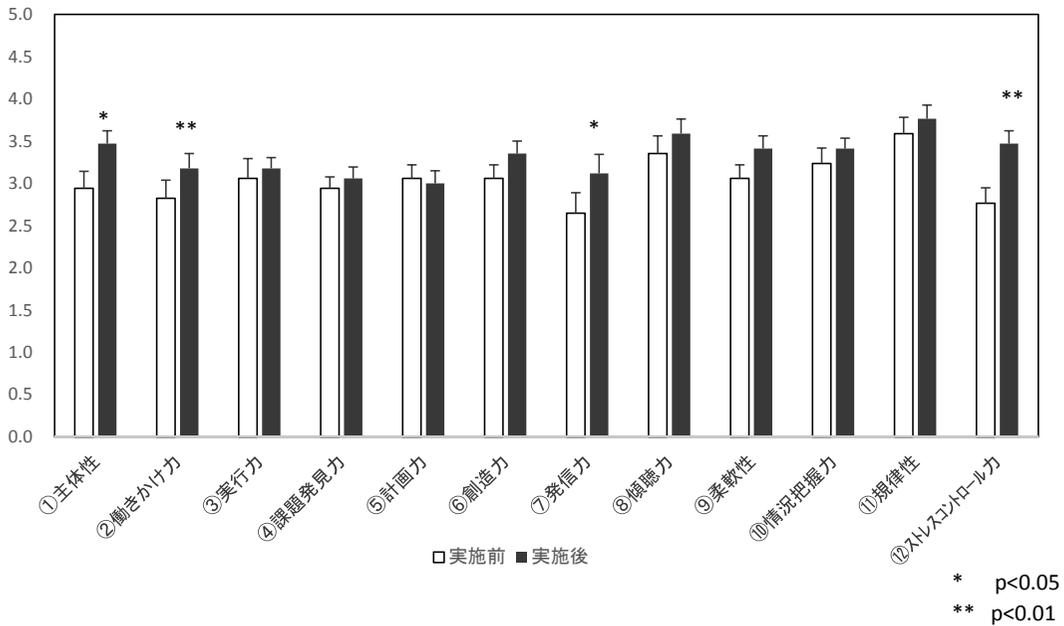


図6 社会人基礎力の変化（初参加群）

実施後に有意に高値を示した。

4 考察

本事業は、公益財団法人明治百年記念香川県青少年基金の助成を受け、お正月飾り及び調理実習の材料費などの経費はすべて無料で実施することができたが、学生はすべてボランティアである。それにもかかわらず、事業実施にむけて準備等よく協力して行われたと思われる。参加者のアンケート結果からおおむね好評であり、今後も同じような取り組みがあれば参加したいとの回答が寄せられていた。

ボランティア活動を行うにあたって「動機」との関係性が問題となると思われるが¹²⁾、今回の学生にとっても、ボランティア活動を始める動機は様々であったと思われる。早瀬¹³⁾は「ボランティア活動では、ちょっとした出会いや気づき、こだわりや思いつきから活動が始まるのが少なくない。最初は、単なる好奇心である場合さえある。」と述べている。本学の場合は、就職の面接時などに有利に働くことを動機として始める場合も多いのではないかと思われる。そのような少し「不純」な動機での始まりではあったかもしれないが、このボランティアを通して地域と社会とかがかり、学生自身が新たな自己の力を発見して成長していく可能性を見出しているのではないかと思われる。

李ら¹⁴⁾は、ボランティア活動に関心を抱いて終わることなく、行動化できるための体制を整えていくこと、中でも授業出席等の配慮や定期的なボランティア活動に対する単位認定が行われることで、ボランティア活動が一層促進していく可能性を指摘している。

今回の「社会人基礎力調査」を用いたアンケート結果によると、実施前、特に実施後に平均値が高くなったものは「規律性」「傾聴力」「ストレスコントロール力」など、「3つの能力」のうち③の「チームで働く力（チームワーク）」であったことが印象的であった。普段の授業とは違い、今回の事業では、特にゼミ活動などを通して、同じ仲間と協力して活動する機会が多かったことがこのような結果につながっていると思われる。協働型サービラーニングをめざす教科の「社会人基礎力」を育成する教

育プログラムについて報告した川田によると新入生に対して調査した結果、要素としては「チームで働く力」が一番高く最も低い能力は「働きかけ力」であるとしている¹⁵⁾。今回の調査でも同様の傾向が示され、「計画力」は実施後も平均点は高まらなかった。

また、ボランティア活動の経験の差による比較では、経験群では、実施前に初参加群と比較し、得点が高い傾向がみられた。そして、逆に実施後においては、「働きかけ力」「発信力」の能力要素で低下を示した。このことは、2年間のこの活動を通して、目的に向かって周囲の人々を動かすことの大変さを、身をもって学んだ結果ではないかと思われる。

若手社員に不足が見られる能力要素として、東証一部上場企業、中堅・中小企業共に、上位から「主体性」「課題発見力」「創造力」が指摘されている¹⁶⁾。一方、不足しているとされる割合が少ないのは、東証一部上場企業、中堅・中小企業共に、「規律性」「傾聴力」「柔軟性」「ストレスコントロール力」である。今後「主体性」「課題発見力」「創造力」等をどのように高めていくかを検討していきたい。一方、齋藤は、学校教育で身につける必要性が高い能力・態度として教育現場では、「働きかけ力」「主体性」「発信力」「実行力」の順であげていると指摘している¹⁷⁾。

大学の授業・活動を通じて学生の「社会人基礎力」がどれだけ成長したかを競う「社会人基礎力育成グランプリ」が2009年より実施されている。2012年度、グランプリを受賞した福岡女学院大学の浮田ゼミによると、このグランプリはゼミや研究等大学における取り組みと成長の様子について学生チームが発表し、もっとも高い「社会人基礎力」の成長が見られた学生チームを表彰するもので、活動や研究の規模、斬新さを競うものではない。活動や研究の中でいかに課題を克服してきたかという点が重要なポイントであると述べている¹⁸⁾。本研究では、学生に「社会人基礎力」について十分認知したうえで調査ができたかということに課題があるが、今回の活動は単なるボランティア活動ではなく、本学の地域貢献と併せ、学生の学びの場としての活動として今後も継続していきたい。

5 まとめ

本研究は公益財団法人明治百年記念香川県青少年基金の助成を受け学生による企画提案活動支援事業をボランティアで実施し、その活動の実施前後にアンケート調査を併せて行い社会人基礎力の検討を行った。そこで、得られた結果は次の通りである。

- (1) 事業内容等、参加者のアンケート結果からもおおむね好評であり、今後も同じような取り組みがあれば参加したいとの回答が寄せられていた。
- (2) 今回の「社会人基礎力調査」を用いたアンケート結果によると、実施後に平均値が高くなったものは「規律性」「傾聴力」「ストレスコントロール力」など、「3つの能力」のうち③の「チームで働く力（チームワーク）」であった。
- (3) 若手社員に不足が見られる能力要素と同様、本調査においても「主体性」「課題発見力」「創造力」の平均値が低かった。

本研究では、学生に「社会人基礎力」について十分認知したうえで調査ができたかということに課題があるが、今回の活動は単なるボランティア活動ではなく、本学の地域貢献と併せ、学生の学びの場としての活動として今後も継続していきたい。

6 謝辞

本事業にご協力いただきました学生及び関係者の方々にお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 公益財団法人明治百年記念香川県青少年基金, 2013, 公益財団法人明治百年記念香川県青少年基金について, <http://www1.ocn.ne.jp/~s430505/4601.html>.
- 2) 西川正之, 2005, 「援助とサポートの社会心理学」, 北大路書房, 東京, 83-84.
- 3) 新村出編著, 1998, 「広辞苑第五版」岩波書店, 東京.
- 4) 吉田久一, 1997, 仏教とボランティア, 仏教福祉, 5, 4-33.
- 5) 黒沢幸子, 日高潤子, 張替裕子, 田島佐登史, 2008, 学校教育支援ボランティアを体験した学生の変化・成長, 目白大学心理学研究, 4, 11-23.
- 6) 谷内篤博, 2011, 「大学生の職業意識とキャリア教育」勁草書房, 東京.
- 7) 厚生労働省, 2007, 「厚生労働省における主な職業能力評価制度」(2007年5月23日).
- 8) 経済産業省, 2008, 「今日から始める社会人基礎力の育成と評価」(2008年7月30日).
- 9) 多田紗矢香, 垣渕直子, 次田一代, 齊藤佳子, 水口裕美, 2012, 「香川短期大学における食育活動の一環としての取り組み～「(公財) 明治百年記念香川青少年基金」での取り組み～」, 平成24年度香川県栄養改善学会(2012年1月26日).
- 10) 文部科学省, 2008, 「学士課程教育の構築に向けて」(2008年12月24日).
- 11) きょうと就職ネット, 2011, 「社会人基礎力自己分析シート」<http://www.kyoto-shusyokunet.jp/wp/wp-content/uploads/2011/08/e291a0e7a4bee4bc9ae4babae59fbae7a48ee58a9be8a8bae696ade382b7e383bce38388e383bbe58886e69e90e38381e383a3e383bce38388.pdf>.
- 12) 馬場由美子, 島かおり, 大宅顕一朗, 2006, 学生のボランティア活動と社会的スキルの変化に関する一考察, 永原学園西九州大学・佐賀短期大学紀要 36, 155-162.
- 13) 早瀬昇・巡静一編著, 1997, 「基礎から学ぶボランティア理論と実際」, 中央法規出版, 東京, 2-19.
- 14) 李在檣, 中村圭子, 栄長敬子, 2010, 障害者とボランティア活動に対する学生の意識変化ーボランティア参加者の調査結果からー, 新潟青陵学会誌 3 (2), 25-30.
- 15) 川田博美, 2012, 「協働型サービスラーニング」をめざす教科の「社会人基礎力」を育成する教育プログラムとしての可能性, 名古屋女子大学紀要, 58, 211-224.
- 16) 経済産業省, 2007, 『企業の「求める人材像」調査2007～社会人基礎力との関係』.
- 17) 齋藤浩, 2011, 社会人基礎力からみた学校教育の今日的課題, 佛教大学教育学部学会紀要, 10, 77-88.

- 18) 福岡女学院大学浮田ゼミ編著, 2013, 「日本一の女子大生が教える社会人基礎力」, 梓書院, 福岡, 110-112.